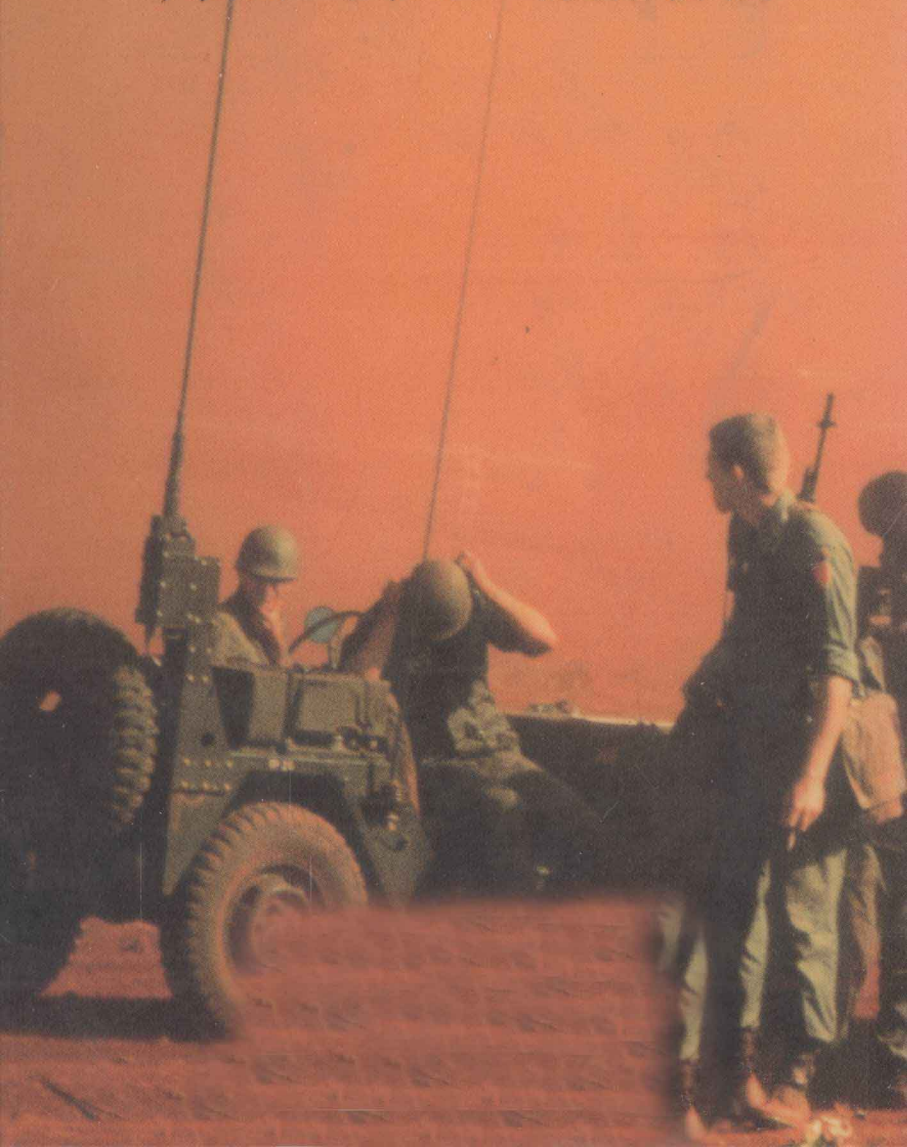


本当の戦争の話をしよう

ティム・オブライエン 村上春樹 訳



本当の戦争の話をしよう

ティム・オブライエン 村上春樹 訳

文藝春秋



THE THINGS THEY CARRIED
BY TIM O'BRIEN
COPYRIGHT © 1990 BY TIM O'BRIEN
JAPANESE TRANSLATION RIGHTS RESERVED BY BUNGEISHUNJU LTD.
BY ARRANGEMENT WITH HOUGHTON MIFFLIN CO., BOSTON
THROUGH THE ENGLISH AGENCY(JAPAN)LTD., TOKYO
PRINTED IN JAPAN

本当の戦争の話をしよう
一九九〇年一〇月二五日第一刷

著者 ティム・オブライエン

訳者 村上春樹

発行者 松浦伶

発行所 株式会社文藝春秋

東京都千代田区紀尾井町三―二三

電話〓〇三―二六五―一二二一

印刷所 凸版印刷

製本所 加藤製本

万一落丁乱丁があればお取替えます

ISBN4-16-312120-X

本書をアルファ中隊の男たちに捧げる。

とりわけジミー・クロス、ノーマン・パウカー、
ラット・カイリー、ミッチェル・サンダーズ、
ヘンリー・ドビンズ、そしてカイオワへ。愛をこめて。

エリック・ハンセン、ラスト・ヒル、カミール・ハイクス、
シーモア・ローレンス、アンディ・マツキロップ、イアン・ナボコフ、
レス・ラミレス、そしてとりわけアン・オブライエンに。

目次

兵士たちの荷物 11

愛 45

スピン 53

レイニー河で 65

敵 97

友人 103

本当の戦争の話をしよう 109

歯科医 137

ソン・チャボンの恋人 143

ストッキング 183

教会 189

私が殺した男 197

待ち伏せ 209

スタイル 217

勇敢であること 221

覚え書 247

イン・ザ・フィールド 259

グッド・フォーム 283

フィールド・トリップ 289

ゴースト・ソルジャーズ 301

ナイト・ライフ 343

死者の生命 353

訳者あとがき 384

カバー・扉
装幀
三村 淳
ティム・ペイジ

本当の戦争の話しよう

これはフィクションである。著者の体験に基づいたいくつかの事実を別にすれば、全ての事件、人名、登場人物は架空のものである。

兵士たちの荷物

The Things They Carried

ジミー・クロス中尉はマーサという名前の娘から来た手紙を持っていた。マーサはニュー・ジャージー州マウント・セバスチャン大学の三年生だった。手紙はラブレターというほどのものでもなかったのだが、中尉はあるいはという希望を抱いてそれらの手紙をビニールにくるみ、リュックサックの底にしまいこんでいた。夕方、一日の行軍が終わると、彼はたこぼ壊を掘って水筒の水で手を洗い、手紙を取り出し、指先でほとんどつまみあげるようにして持ち、そして暮れ残ったひとときを夢見心地に過ごしたものだ。彼はニュー・ハンプシャー州ホワイト・マウンテンズにロマンティックなキャンプ旅行をする様子を頭に想い描いた。時折封筒の糊づけ部分を舐めて、ああここに彼女も舌をつけたんだと思ったりもした。彼が何よりも望んでいたのは、マーサが自分を愛してくれることだった。自分がマーサを愛しているのと同じくらい彼女も自分を愛してくれたらなど彼は思った。でも手紙の内容はだいたい他愛ないもので、愛については一

切触れられてはいなかった。彼女はおそらく処女に違いないと彼は踏んでいた。彼女は大学で英文学を専攻しており、担任教授やルームメイトたちや中間試験について、あるいは自分がチャージャーに敬意を抱き、ヴァージニア・ウルフに深く傾倒していることについて流麗な文章を書いてきた。彼女はよく詩の一節を引用した。戦争のことなんて一行たりとも書かれていなかった。ただ「ジミー、体に気をつけてね」と書いてあるだけだった。手紙の重さはしめて三十グラムというところだった。手紙の最後には「さよなら、マーサより」と署名してあった。クロス中尉にもラブという言葉がただの挨拶の慣例句であることはわかっていたのだが、それでも彼は時折そのきまり文句に無理に意味をこじつけたりもした。日が暮れてくると彼は手紙の束を大事にリュックサックにしまいこんだ。そしていささか心を乱しつつ、ゆっくりと腰を上げて部下のところに戻り、周囲の守りを点検し、やがてあたりが真っ暗になるとまた穴に戻って、夜の監視をしながらマーサは本当に処女なんだろうかと思悩んだりした。

彼らの所持品はだいたいにおいてその必要性によって規定されていた。必需品あるいは準必需品を列挙してみると、P38缶切り、ポケット・ナイフ、ヒート・タブ、腕時計、認識票、虫よけ、チューインガム、飴、煙草、塩の錠剤、袋入りのクールエイド、ライター、マッチ、縫いものセット、陸軍給与支払い証明、クレーション（野戦食）、そして水筒が何本かというところである。それらはひとつにまとめると、それぞれの持ち主の習慣やエネルギー代謝によって多少の違いはあるが、だいたい六キロから九キロくらいの重さになった。ヘンリー・ドビンズは大男で、余分